208
89

花意抄 全

国立国会図書館

蔵意抄 208-89

ガラス使用

蔵意抄

208
89

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

横山二公壽

忠臣蔵大序ノ發語ニ曰嘉肴アリトイヘ𪜈

漢文字彙ニ曰意猶由良慶之合印也

和名抄曰不順カ

野訓類林曰ワケアヒ和訓安比ヤイ和気也以

蔵意抄序

明治三十年・醫學・中川

茲ニ嘉肴あるといへども。食ざれバ其味を知ず。珍器のうつくしといへども。好事家多くハ。迫求紛ざれバ。骨董ハ。ただ。空しく。好事家多くハ。骨董ハ。ただ。空しく。好事家ノ。あるの。隆盛。旨慢の素人

吾原網見
五葉松盲
太夫之盲
孔子之盲
異本
和當作
格
智慧
涅槃
經盲
阿房囉
切能婁
牽乃多
摩護
紅毛本
第二盲
「ウーシーフーグ」

和名
ウシノ
キンタマ
ヂガチ
地鉄
通子方
言二日
眞盲
ヲ云
小道具
部屋
戯場訓蒙
圖彙二委シ
藏衣裝
右二全シ
序文二標
註ハナト
ヂシラ
ウガヤ

ばる世の習俗。皆乃太夫好みの反古ちぶ子好遺
ちぶもうる心を想ふは。今。当ぼ合の三文ぬ。ぼふも
五両衣清人乳も求めぶ。孰が偽でう裏色ちう
貿人を購人を雲を称号。天竺乃能婁摩支
呼。和蘭の牛陰嚢仁でも角でも摸彫うる十九
文盲かる人をおどの。拉切のようう汀支折
をと。家苑がちいと称号こ。其の程くこうめ
ぶ。泥溝うう地足の衛生おを掘出す食く。
煙管かう討ちの古図なうこを手にいるべし。

さくおど地獄ぞ雅なくぼ。ここに好事家乃大
先生。須日忠臣蔵乃小道具部屋うく。秘蔵
乃古物をきる定生。いろは付支毛持う
少てぶ打ふりさ出このめる。落意和をこう
ふうぬ。おのまか増補さよくふ。校合するさ
九太なぐのう。むのおれ。ばお志れいのが。化
あうそくてる支のまゆぶも。一枝加てく其上ふ
作者をやんやさほめく図。時呼び下ちか者
を含いて味をもつて。珍器を巻して其意を

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

悟（サト）れる人（ヒト）糸（イト）理（リ）。

文化八年辛未十月堺町（サカヒチヤウ）の茶亭（チヤテイ）
越前屋長八（エチゼンヤチヤウハチ）が楼（タカドノ）ふれいの例乃酔中（レイノスイチウ）
筆（フデ）を採（ト）る

本町延寿堂（ホンチヤウエンジユダウ）のあるじ
弐亭三馬

門人
伍亭毛
雪亭麦
標註
イトハ
去ヲテモ
去ヲデ
モノヲヨ
ハレ
多ノイ
譯体
モナイ
右澤村
訥子が
家ノ口
調

急（キウ）ぎ参（マイ）れと手紙（テガミ）を
寄（よこ）したれば
夢（ユメ）かうつゝか
驚（おどろ）きながら
取（とり）あへず
参（まゐ）りました
其（その）訳（わけ）は
外（ほか）でもない
多賀（たが）大（だい）神（じん）
宮（みや）ゐ
書（かき）
多賀大神宮（たがだいじんぐう）
参詣（さんけい）の

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

竹田出雲
忠臣蔵
振向絵

好大星
由良之助の
狩野を
猶名を
棄じ

赤穂
吉田文三郎

由良の助の
紋所を
二つ巴と
巴々
文三が
定紋
なり

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

竹束
箙後の掘
忠信義
山科の
浪と
役場ふく
神て
浪

三絃の
名参
雪深の
竹葉
箙後
なり海北
ぬ雪の
かけて
今ふる
名浄
きよく
あり

月波機
国貞画

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

目

一 高野師直之艶書
一 豆利舘四足門之古尾
一 伯州藩士分限帳
一 力之夜合銭牘
一 師直邸宅之繪圖
一 加留妓名標紙
一 泣拝慶之前刀脱画

以上

一 桃井家枕自鳴鐘
一 千崎所持弓張提燈
一 狩人言上書之縮圖
一 寺園所持之佩刀劔
一 枕柏子之唱本
一 金閣寺幷見之信牌
一 夜討蓄麦之報條

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

○此紙ハ源吾ガ大鷹檀紙ト奈の外。高の武蔵紙ナリ。
總テ蝕ヘぐり注ソでざぐりゆ名。鹽治等ナリ。
ヨリて縮寫セ。紙末二三寸余かとり筆。ちぢり
未見の珍書ゆゑべ。

△桜ごろふ師走ハ若田の芭蕉ぐ門人ゆ
いへどと文幸雅みゐ次第浪人ゝて手跡指南モ求なき
ま績なり。只好色事ゝれ人物ゆ名ふ鎌倉勘蕃の浅茂。
女文幸ゝつふ書と求そ。臨模ゝれ只筆さ。さて
古風の文体なり。彼三會同の報仁ゝ。煙草の摘み添
ゐる定規の出文章欤。おかゝ

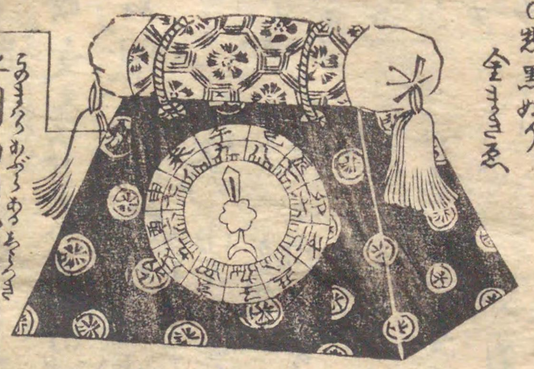
一倪ふ師走の艶筒ハ双ぐ品の陋居が代作と行
されごはれしぐ草のもまゝ際ゝをもぐえぞ不審
。上方唄の文句とゐのちよ
△なのそろ條下に
引ゝごろのちいぬゝ
句まゐれ行ぐ

訂直ハ艶筒ノ
表書ニ武蔵
鐙トマデ洒落
クレビカンビンノ
良美御前ガ
彦州鍋ニアラ
ズシテ残念

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

桄自鳴鍾 まくらどけい



此圖油塔漆附て蒔繪を施ぞ△按ずるに若狹之助寐像の枕もこれ〳〵

○地黒めう金まき絵

△裏面方ハ奥方と云なれバ比翼紋之ものふい〻ハ明日知らぬ命と契んと約りし其歌奥ゟ遣くるそうらいけれバ

本文ゟ斯く見えよう

帶漏刻水時計之時計ノ類許多アリ竹田近江カ萬年時計御緣日ニ賣フハ紙細工ノ日時計ナリ今云桄時計ハ桄元ニ在ヲ云リ彼刀桄金ノ類ナリ敢テ桄ニ爲故号ルニ非子ド桃井保近生質短慮ノ士ナリ且若挾殿若ケレド好勒ラレテス仍テ式日ノ出仕些モ遲刻ナシ家老本城ガエ夫ヲ以テ圖ノ如ク製作シ夏ハ日面冬ハ日陰ト長短ノエ合ヲ計テ之ヲ擬タリト云云

○大名時計ハ遊ビ或ハ雜を割くれ行ぞ武士の刀と刺のんそ

註之 ゟハ二ろふそるよりも金で画ゟ方ぞ當世〳〵

右ハ助六所緣江戸櫻 髭の意休 青樓 章門三ふ当ろ

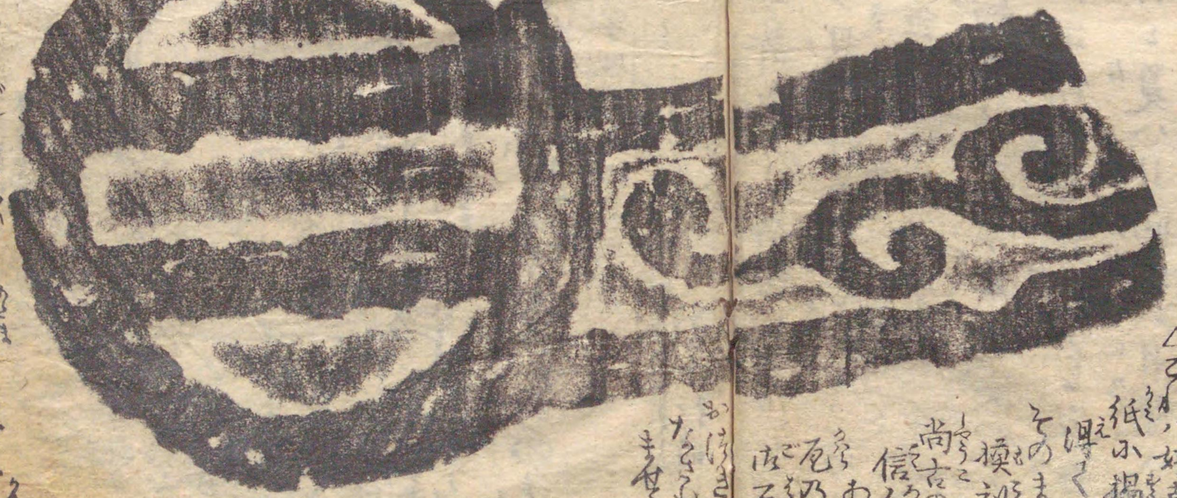
△囲ゟの朴書數部めり。秀鶴本。三朝本和漢本取善△當時公條治本を善本とセ

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

足利館四足門之古瓦

神靈矢口渡（福内鬼外作 江戸浄瑠璃）ニ曰
瓦と為て全うらんよりハ
珠と為て砕よと云
南瀬六郎ハ義理と
硬く覚しど夫ハ昔の
浪華曲瓦屋搞れ下り瓦
江戸ニ今戸の地瓦とうそ
かほ瘡蹟乃古瓦世に
玩弄と尚今玉石よ如ー



呉庸和悟齋珍藏
俗称内田某の庫瓦
今傳来して家紋とす

△これハ好事の客
紙ニ搨るを
得て
その
模様を
尚古の君子
信ろ仏
わらんべ
瓦乃
古反京

○四足門ハ摂津国
天王寺の猫乃門う
そうふ門ぞ
ハ幸篤寺の
門ぞうそ流言
乃宿昔鎌倉足利
の館ニ勘平が
腕乃細葱と伴内に
ふるまひし
力足の響ニ應ぞ
落され死なんべ

○或人の曰
其時節門前ニ吾今のバ天生ゲのぶる勘平と
おぼしきなるべし

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

千崎所持弓張提燈

△桜三近世燭ヲ點テ四十八文ト呼テ浮浪提灯ヲ翫ブ者アリ其昔義士各夜討ト定ル夜燭ヲ點テ四拾七人要ク道提灯ヲ持シト餘光今尚夜ニ遍クヲ想ヘ

○五段目の本文言もろもろ小ぜりもの云々

又忠臣蔵文字理と小田

「そば屋さん」

右天王祭の行灯

伯州藩士分限帳

○竪冊なるべし横冊の帳紙はセンカ西の間乃たぐひか又は喧嘩遺恨の間よろしくとうつしとゝり一枚ごとに存を

△桜三分限帳とは本帳は別にあるべし其形傘ばぐく作り押ひろげて弓張提灯のごとき是別ものなり寄弥五郎が浪くの分乃宿生小袋に入て「そばや」どのしもつ八弓張の間と吊花落乃人ごとに提先提灯と呼りを行ちうしが行ちうくなく提先と誤傳へしものなるべし

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

表諸士預役後

高二百石　原氏
指人扶持

高三百石　千賀伊豆守
五人扶持

庭廻り役

高百石　竹森善八
五人扶持

近習役

高百石　谷定右衛門
五人扶持

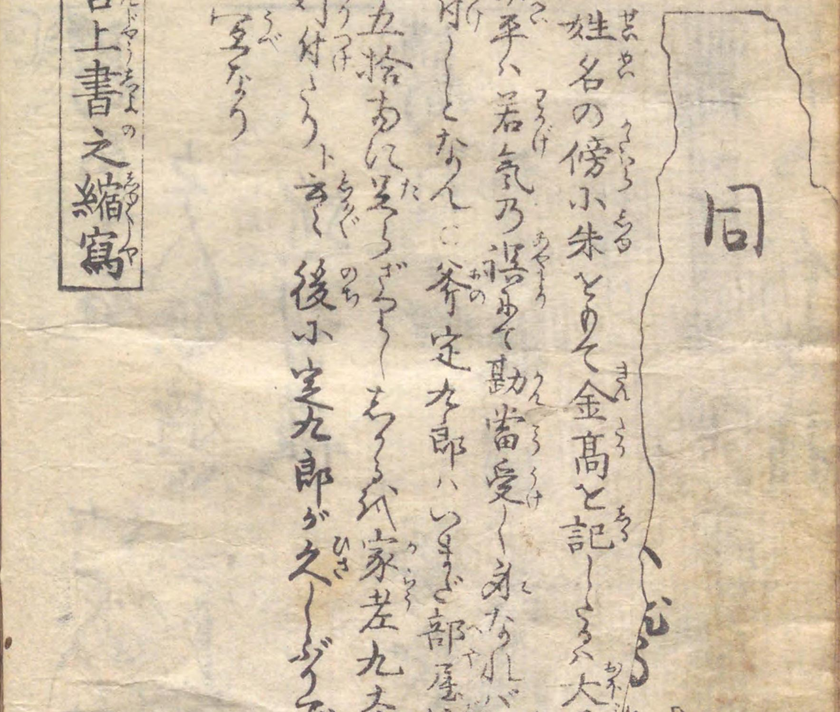
同

高百石　[illegible]
[illegible]人扶持

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

同



○姓名の傍小朱をもて金高と記しるす大星が筆蹟なり

早野勘平 若気乍ら謹めて勘当受しゆゑなれバ配分の金八余人より割付しとなん 斧定九郎ハいまだ部屋住ゐりけれバ金高を五拾両にせしつゞら 右家老九太夫が私欲ゆえ五拾両割付ふりと云 後小室九郎が久しづゞでの五拾両そうなり

一 山崎村猪聖右衛門と云もの 此もの

組八程聖角兵衛 此もの

時々ハ夜私ども二人連ニ而ハ山狩ニ

でんこぼくらをぬらし 鉄砲の

夜山ゐをして居りがび 村百姓

ゐる大星

戸板のせ川手二而

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

○坂下口　○あぐら　死骸あぐら　○有之いの○ふんぞりかへるなど　頼倒うまく
○大ごまり　大きおおごまり　驚誤　○田丸近　宅　様　宅乃字とまぎらわしく是ハ
○大今ハ徃還なり　○小長ちゃ　ハ小提灯なり
○酒焼ハ月代　○さもしハ侍さむらひ
○ゑめへハゆきあひ　○寝衣ハ寝巻夜着
○桜ごろもハ二文判　○狸乃毛ハ兵衛が印
章　草書みそ　と刻しるし　出来合乃下値判　高家もの
実娘合の節用ゆる事なり　○煙ハ烟乃六ツ兵衛が圖章　磨滅して
ひつぐり　或人云ふれい煙管の雁頭に煙草とまろう結

○のびゆさもちいかい体ごと人ごと
あを宝永第四
ちごと通年ごと
山秀村

真ふ墨となるごとく押して物となん　通鄙の人情うのごと
貧賎せず且仕古の風俗質素ごと　規倣べし

本書ハ

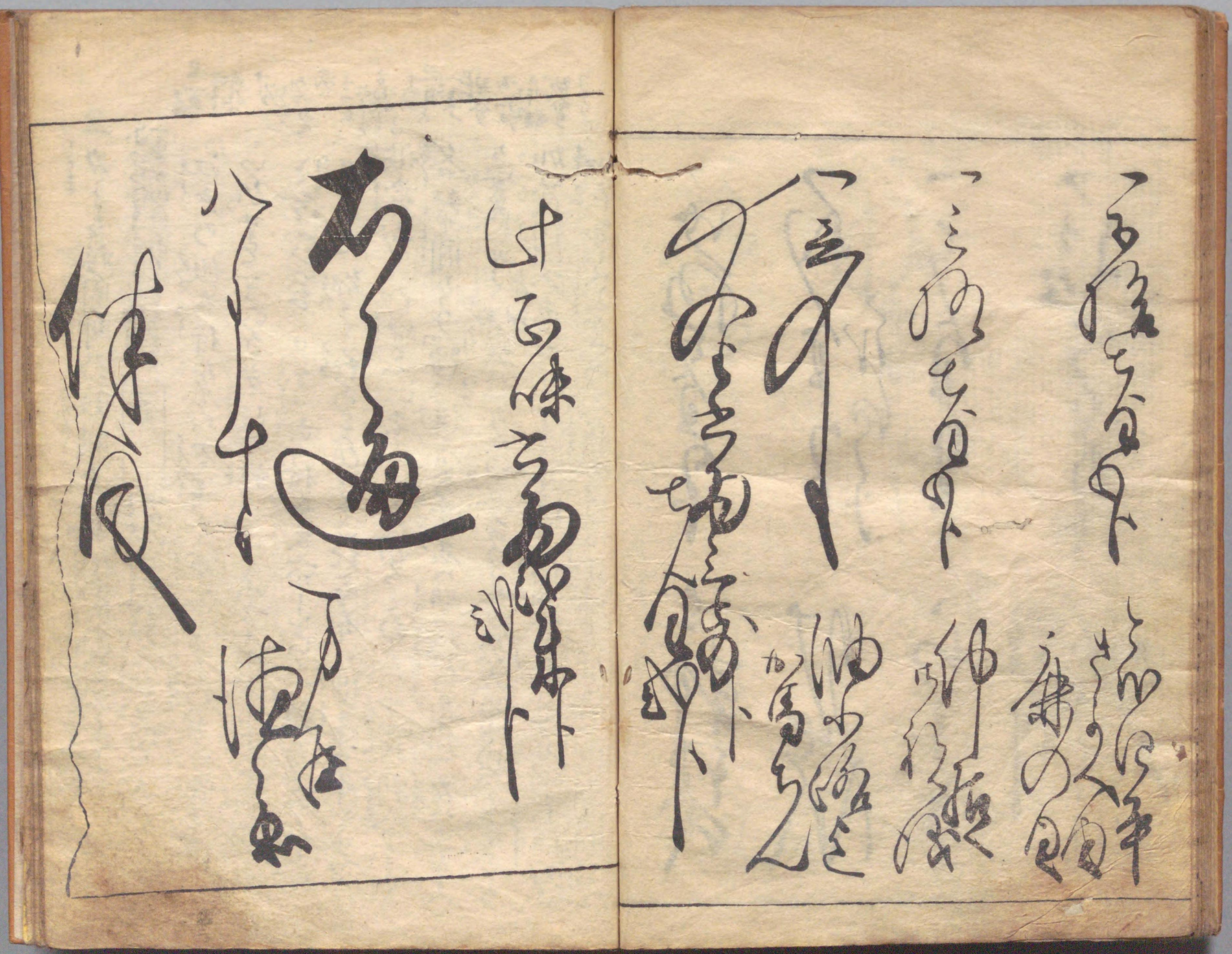
国立国会図書館　蔵意抄 208-89
ガラス使用

一力之夜合銭(ひとちからのよるあいぜに)積

○此呼蔵家(よびくらや)ハ下(しも)ニ抜極(ぬきはめ)ぬ二(ふた)ツ京都居(きょうとずまい)斧管某(おのくだなにがし)滅

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用



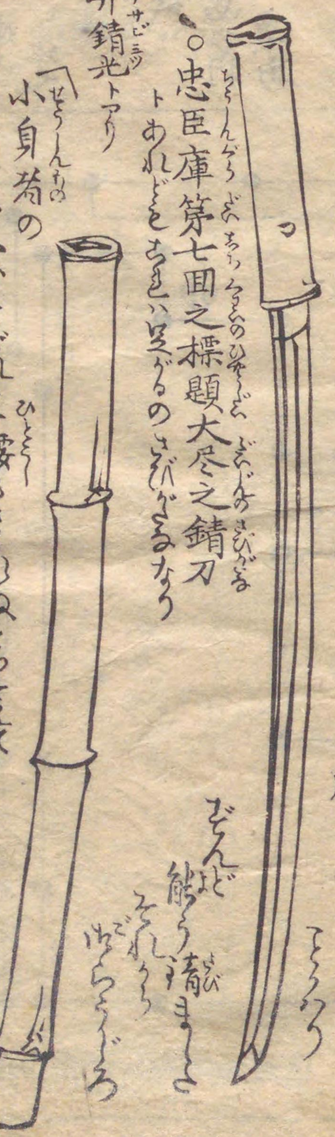
国立国会図書館　　蔵意抄 208-89

ガラス使用

○一カ所ゝゝ祇園町乃妓楼なるがかゝる
一カゞかけあんどうろう 一カ 万乃字なり
○十一夏 多トハらん 江戸乃假在行なるべ万楼より万亭ゝる仔ぜう角ゝうレ
すゐ 也を「さゝふ立阪の假在行ゞやさひ万の字と訓て一カ
ろうぜん 或ハ十二ゐ トとゝふゝる。十二ゐ拾ゐ文六トとの ふ鰯などゝふを極
よろべ ○彼書出乃中ふ二ゐ二トゐ花買 品ゝとも都ゝゐるべとそ花を本ハ線香一本とゝゝ
(ハ一見ゝ 一度ノ見参ヲ云江戸ニ所謂初會コトナリ) 各幇間なう「按ニ俳名の當名ハ醫坂俳門ニ一カハ九ゐ文
う妻帯みゝく俳公ハ一ぐんの客ゐうゐ九をどのゐゝゐゝゞも
加茂川へ西ゼーゐ名を連ゝ俳間ニ西ゝ「ゐゝ流原
在あるべとゞゐろ乃ゝ情なう。正味とゐゝゐろハ一刻ゐ二刻ゐ

寺岡平右衛門所佩刀劍

○忠臣庫第七回之標題大尽之錆刀
トあれどもゐゝハ忠ゐるのさびざるなう
○銘 赤井錆光トアリ
小身菊の
うすゐゝふらぐれニ擾もさゐぬとそゝえて
きのどくなゝでさびよう
小国の発抔ゐうまぐさ汤取ゝ逃一ゐ今みゝ二ヶ月ゞあひだ
北人ゝゝゐゝゝゝゝのゝゝ中ゝゝゐ
大刀打師也を北人ゝゐゐて討んとふゐんゞわるゝなんでゞも
ゝを忠臣の義倫亂傷 三馬作 當年出板とゐのべ

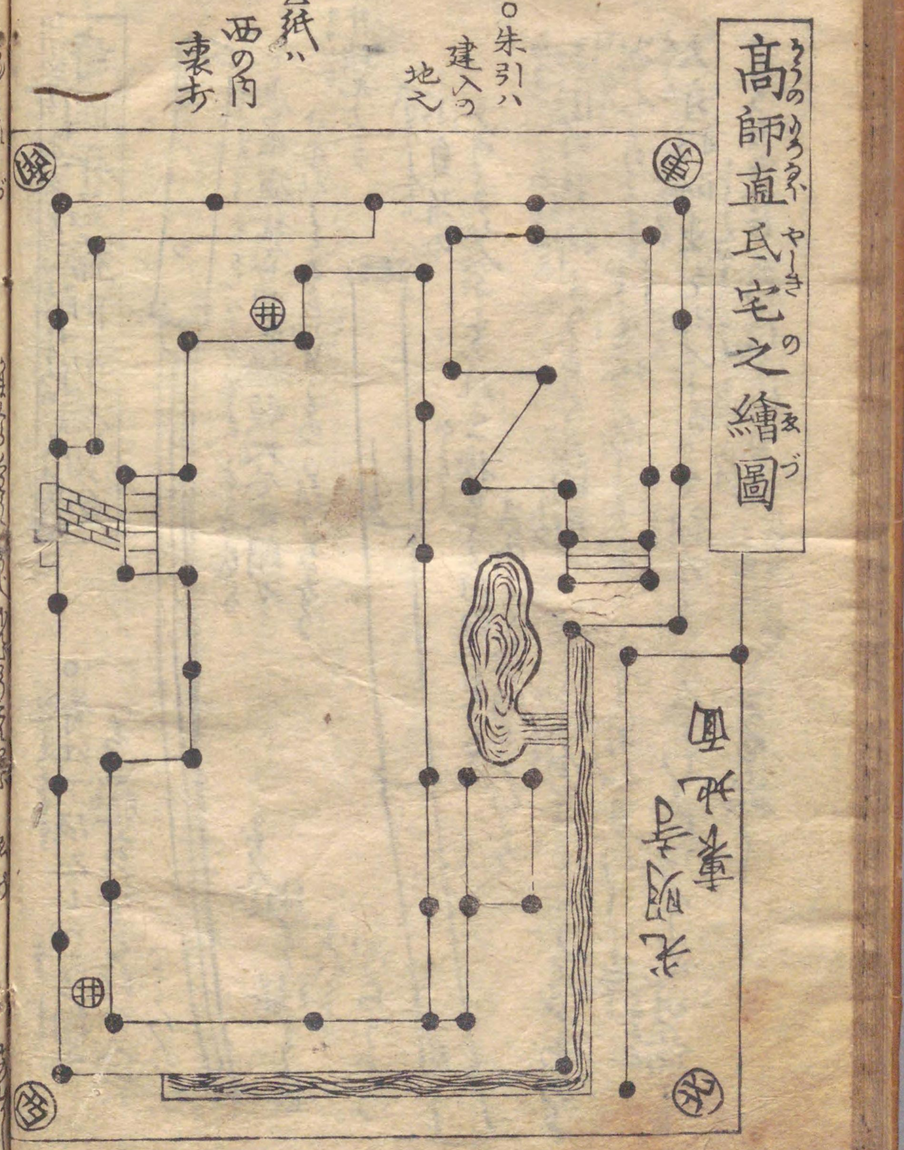


国立国会図書館　蔵意抄 208-89
ガラス使用

高師直兵宅之繪圖

○朱引ハ建入の地之

△紙ハ西の内裏ゟ



抑是小園ニなん鎌倉光明寺本堂建立の後園林あらず其昔寺園ニ有つるふ者奉ると五東ふ二人扶持とのミ口恩ふさ不なきとそ云ハ忠仏打ふ招ひつふとうして主君の恙敵とるのミけ修羅の妄執ふ尽ふ事なんと記念ニ貢ハ終月焼茅八里半と貢ハ夜ハ終ふ飯ハ福餅あらん筈ど飽まで食ゟと非人ゟ食或ハ順次ニ古き貢さはぐふ対して師直の館ふのこと家老用人門番折ゟ話それしふ此紙合ゟく歎地の業門をぐく探ふうと云実長屋侍初屋ふの物玉世ゟ部屋まで鎗さど備ゟ古戦さ記ふ絵ふ面でござる加ふ昧まゐ頭向漬んで笑ひおろれしまゐ

○或人曰加古川行国ゟおろの同孫ニて山科ニ狭く住しハ至ゟく細密なり図とゟ切の関ハもゝの相者若ゟ道礼ふ傳り今聖林ゟ郎ゟ秘蔵とそ

国立国会図書館　　蔵意抄 208-89

ガラス使用

おかる妓名標識

○九條の廓或ハ太平記乃時代ふ東洞院の好色ふ行てなどある条なりバ名指紙とゝふりの昔より有てゝゝ

○蔵ふ屏風乃形ちを模ると雖ども大きふ異同あり

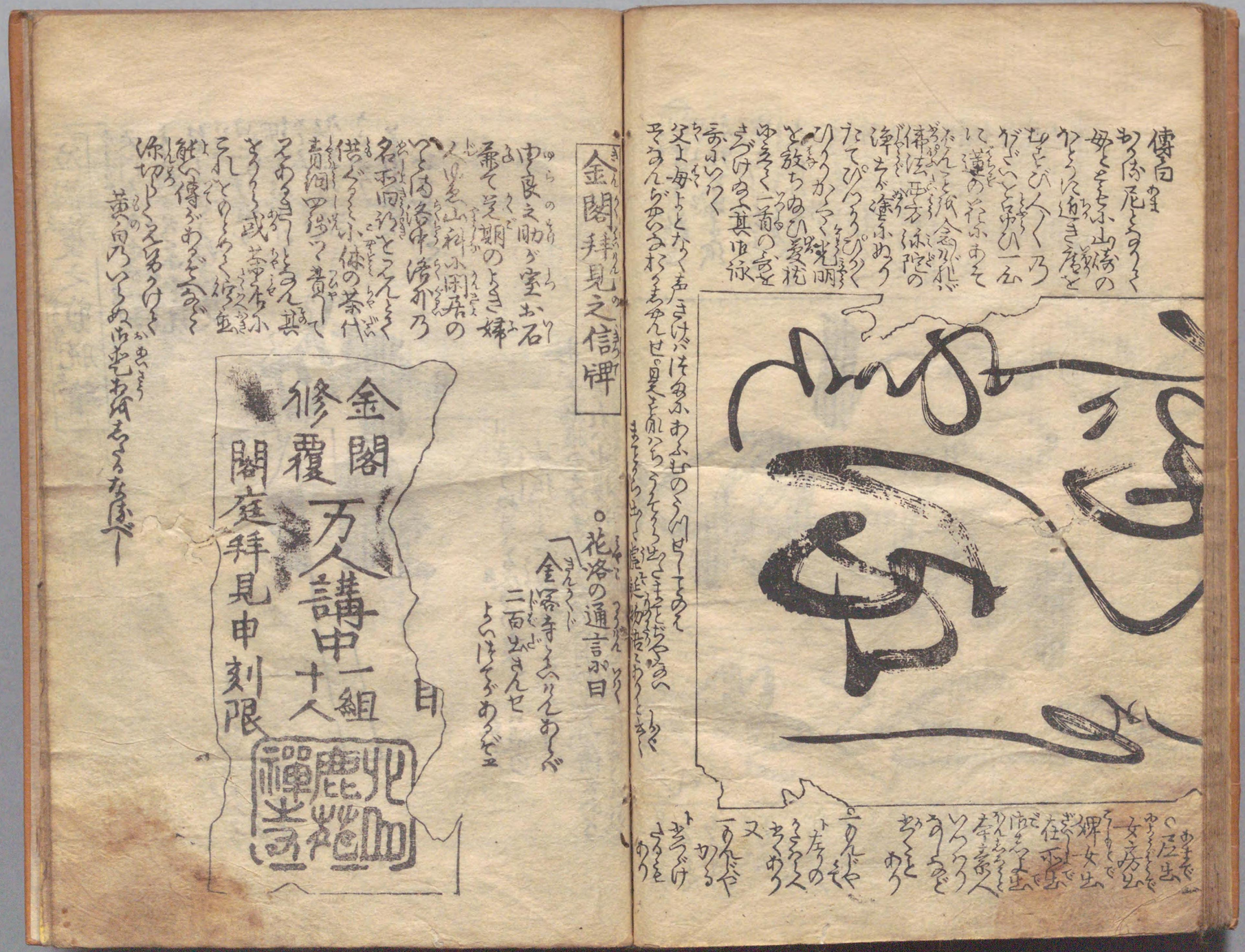
○枚数紙竪二四ツ切乃寸法乃紙乃ことをいふ

〈曲中ゟく新ふ彩頭と出ると紙宝出ゝといふ又くるの外白人などくるめて出る時ハ呼屋乃名ゟく名ゟくる札を掲る号を掲屋指紙又名さし紙とゝをいふ酔ゟゝハ洒落て指帋と称ゟゝ通用

○十二七のふうゟくをちんぎと読ゟゝ○廿五六をそと読ゟゝ○廿七八を中店と読ゟゝ○廿九三十を教店と読ゟゝ

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用



国立国会図書館　　蔵意抄 208-89

ガラス使用

泣薙慶之前脱繪

これハ附木なり
一名硫黄木

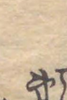
国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

夜討蕎麥之報條

○つばの筆耕剞劂氏が小刀の先にて彫刻とおぼし

○下地の悪筆



文化八年辛未初冬
補綴成
同十年癸酉初春
賛敗

萬葉玄人試筆

應需 式亭三馬補綴

常秋賛允

式亭三馬銅駝先生綸輸
門人 徳亭三孝
学亭三子 全校

好古愚癡録 初編 全三冊

此草紙大半出来有之候ニ曽粂散人
滑意抄の著述ニ出来つゝ三馬先生と
同案の上ニ而ニ冊ニ綴補板致候
事ニ而ハ無之候へ共先生の筆と名ハ
増補致候ニ而ハ無之候へ共先生の筆と名ハ

此書金言八百万年永未見未聞の珍書
好古家のまてゐるぬりめ恰好の集そ
形と号ふめるへきもの古書をあさり
生さるれ考とあるとすべて古物鑑古癖の
ものゝと好古日録好古小録柱林漫録の
ふ疑ハ實に癖呆のうゑをにくくして
尚古の諸君子のお笑とこそ 牧元

文会堂
青雲堂

式亭家製藥品目録

江戸の西 代五十文 十二文 代百文 代百五十文
金勢丸 大包代百文 中包代五十文
龍樹散 一包 十二文
あらくれ黒藥 代五十文
御歯磨 蘭奢袋 代百文
正徳年中新製 薄化粧 一包 百文 半包 五十文
小児百日せき丸奇藥 代百文

国立国会図書館　蔵意抄 208-89

ガラス使用

208
89

歌題自奇特 **法花再度咲俊寛** 全四冊續合巻一本 緑亭可山著 勝川春亭画

江戸名所 **吉原figs六** 一枚摺 歌川國満画

假名手本 **藏意抄** 中本一冊 風雅でなく画拙でなく俗でなく手澁でなく古くもなく新しくもなく地もなく紙もなく板もなく摺もなく仍て藏意抄と名づく 式亭三馬増訂 歌川國貞画

滑稽奇言 **田舎芝居正本** 全一冊 田舎芝居のありさまを専に模して其面白おかしき 勝川春亭画 葛葉散人正三作

江戸本問屋文刻堂 本石町四丁目 村源六梓

江戸名所 **繪本墨水両岸行** 全三冊 大川橋より隅田川西岸行〳〵名所旧跡の素景を写し北尾重政勝川春章の画を加へ一流秘の筆意を尽せり

江戸名所 **繪本物見岡** 全二冊 正月より十二月までの画 関清長画

神仏感應 **顔輝画寶寶記** 萬寿亭正二著 勝川春亭画 神仏感応して霊験顕るの奇端あり童子の為に大きな助あり本なり

江戸名所 **江戸年中行事** 神社仏閣縁日その社祭るの名をしるす

江戸の書林 文刻堂 西村源六梓

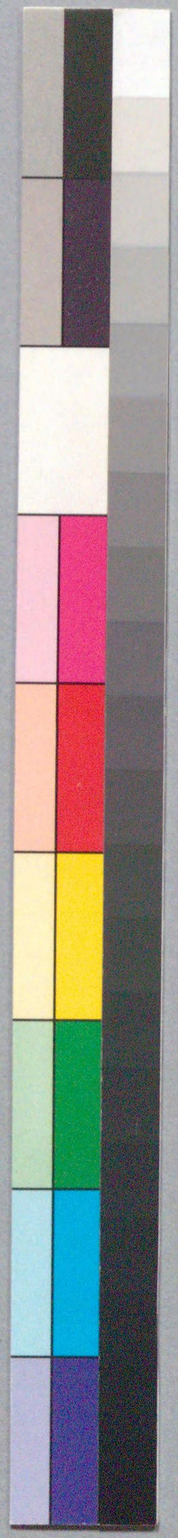
国立国会図書館　蔵意抄 208-89

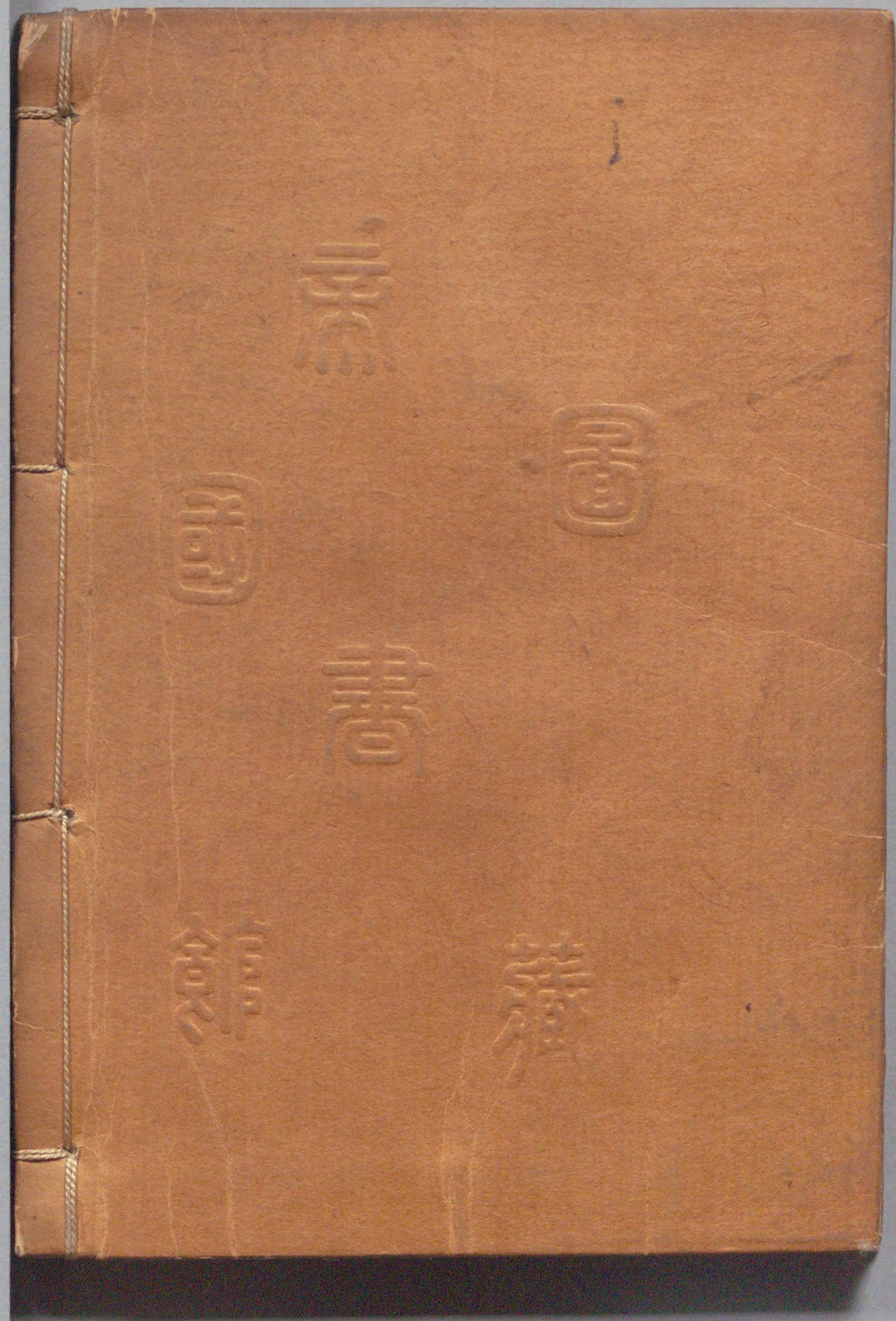
ガラス使用

208
89

国立国会図書館　　蔵意抄 208-89

ガラス使用





国立国会図書館　　蔵意抄 208-89

ガラス使用